

2024(令和6)年度

学校法人麻生塾 事業報告書

2025年5月31日

学校法人麻生塾の建学の精神

「仕事を通じて社会に貢献」

麻生塾の沿革

麻生塾は1939年（昭和14年）3月31日、採鉱技術者を養成する目的をもって、福岡県飯塚市柏の森の麻生農園跡に誕生した。それは、個人商店として炭鉱事業を営んでいた組織を「株式会社麻生商店」として会社組織に変更した20周年を記念した、教育関係3事業のひとつだった。麻生塾は同社社長・麻生太賀吉氏（1911年～1980年）の、とりわけ深い思い入れをもって創設された。

麻生太賀吉氏は、少年時代に指導を仰いだ九州帝国大学教授の河村幹雄博士（地質学、1886年～1931年）の卓越した人格と学識に強い感化を受け、同博士の教育の理想を具現した学校設立を念願していた。河村博士は地質学者である一方、「教育の他に何者もなし」の信念のもと、教育者としても名高く、今日にも通じる多くの提言を残されている。

時代は太平洋戦争前夜、すでに中国と交戦状態にあり、日々戦時色が濃くなる中、石炭増産が強く叫ばれていた。

麻生塾の目的は、職業を通じて社会に奉仕する中堅産業人を育成することだった。麻生太賀吉氏は、どのような時代になっても人間教育が最も大事であることを、強い信念としていた。創設当時の新聞には「昭和の松陰塾」と報道された。

開校当初、麻生塾の修業年限は3年、これを学習2年、実習1年に分け、各学年とも1学級とした。河村博士の教育方針に徹して少数定員主義をとり、1学年の定員を20名以内とした。入学生は高等小学校卒業生を対象とし、生徒は全て寄宿舎に入る全寮制、学費は全額を支給するほか、社員見習いの資格で月々若干の手当ても支給されていた。

長い戦争が終わり、新生日本の六三三制教育の実施に伴い、1948年（昭和23年）3月、麻生塾は新制高校、麻生塾工業高等学校（採鉱科）として再スタートを切ることになった。学制は変わっても、「仕事を通じて社会に貢献」という建学の精神は、少数定員主義、全寮制、給費制とともに、戦後もそのまま堅持された。そして、その特異な校風は広く教育界に認められるところとなった。

2024(令和 6)年度 事業報告書・目次

I. 法人の概要	
1 沿革	… 5
2 設置する学校・学科	… 6
3 学校別入学定員、学生数等の状況	… 8
4 組織図	… 9
5 学校別教職員数	… 10
II. 事業の概要	
1 重点施策の推進	… 11
(1) 学生募集活動の強化	
①募集活動	
②入学状況	
(2) 就職・キャリア形成支援	… 11
①就職支援策の実施	
②求人プラットフォーム「Career Map(キャリアマップ)」の活用促進	
③UIターン就職や企業奨学金など価値ある情報の収集及び学内発信	
④ASO卒業生キャリア支援「CONNECT(コネクト)」の運営	
(3) 教育の質向上	… 12
①教員の資質向上	
②教育の質の向上	
③主体的学びの促進	
④授業改善	
(4) グローバル化の推進	… 13
①麻生塾海外留学奨学制度	
②外国人留学生の受け入れ	
③海外留学(長期/短期)の強化	
④インドネシアBINUS 大学 3,4年次生のインターンシップ受け入れ	
⑤教職員におけるグローバル感覚醸成	
2 学校運営	… 15
(1) 運営組織	
①本部機能	
②各学校	
(2) 社会的責務への対応	
①社会の要請に応え得るガバナンス改革	
②継続的取り組み	
③2024年度の取り組み	
3 教育活動	… 16
(1) 学科の新設、廃止	
①麻生医療福祉&保育専門学校	
②専門学校麻生工科自動車大学校	
(2) キャリア教育(グローバル シティズン・ベーシック教育:GCB 教育)	
①GCB 教育の概要	

②教育改善	
(3) 研究関連活動	
4 学生支援	・・・ 17
(1) フレックスクラス・学生相談室	
①実施内容	
(2) 学びラボ	
①実施内容	
(3) 学修支援のための奨学金制度	
5 社会貢献・地域貢献	・・・ 18
(1) 活動状況	
①次世代リーダー養成塾への担任派遣	
②ボランティア活動	
6 働きがい創生	・・・ 19
(1) 多様な働き方への対応	

I. 法人の概要

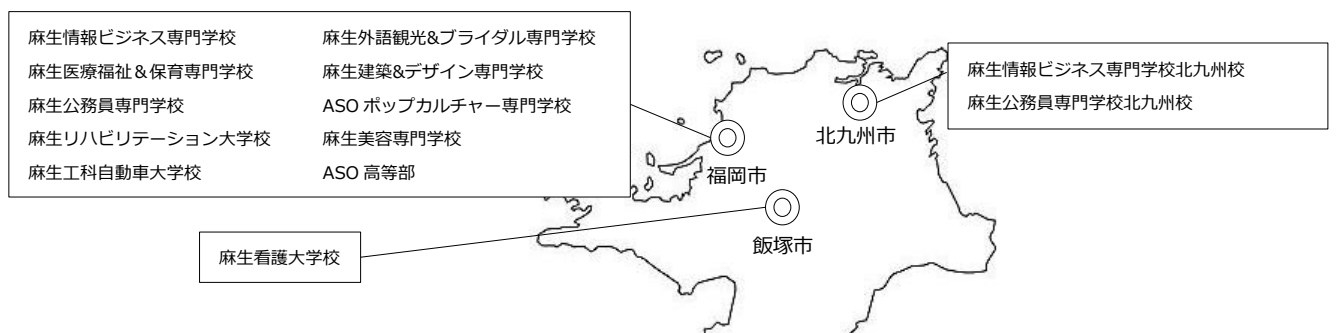
1. 沿革

1939 年（昭和 14 年）3 月	麻生太賀吉、麻生塾を創立
1947 年（昭和 22 年）12 月	財団法人麻生塾を設立
1948 年（昭和 23 年）3 月	学制改革により麻生塾工業高等学校 開校
1951 年（昭和 26 年）3 月	学校法人麻生塾に組織変更
1980 年（昭和 55 年）4 月	飯塚病院附属高等看護学院を学校法人麻生塾麻生飯塚看護専門学校に改称
1986 年（昭和 61 年）4 月	麻生電子ビジネス専門学校 開校（1 号館）
1989 年（平成元年）4 月	麻生飯塚看護専門学校を麻生医療福祉専門学校に改称
1991 年（平成 3 年）4 月	専修学校麻生外語観光カレッジ 開校（3 号館）
1996 年（平成 8 年）4 月	麻生法律専門学校、麻生医療福祉専門学校北九州校、 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジ、戸畑に開校
1997 年（平成 9 年）4 月	麻生医療福祉専門学校福岡校 開校（4 号館）
1998 年（平成 10 年）4 月	麻生工科専門学校 開校
2001 年（平成 13 年）4 月	麻生リハビリテーション専門学校 開校 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジを麻生電子ビジネス専門学校北九州校に改称
2002 年（平成 14 年）4 月	麻生法律専門学校を麻生公務員専門学校に改称 専修学校麻生ビューティーカレッジ 開校
2003 年（平成 15 年）4 月	麻生電子ビジネス専門学校を福岡校、北九州校 とともに麻生情報ビジネス専門学校に改称
2004 年（平成 16 年）4 月	麻生塾 北九州キャンパス小倉校舎 竣工 麻生公務員専門学校を麻生公務員専門学校北九州校に改称 麻生情報ビジネス専門学校北九州校及び麻生公務員専門学校北九州校 移転
2005 年（平成 17 年）4 月	麻生公務員専門学校福岡校 開校 麻生工科専門学校を麻生工科デザイン専門学校に改称
2006 年（平成 18 年）4 月	専修学校麻生外語観光カレッジを専門学校麻生外語観光カレッジに改称
2008 年（平成 20 年）4 月	専門学校麻生工科自動車大学校 開校
2008 年（平成 20 年）8 月	麻生外語観光カレッジの新実習棟「ASO SKY CUBE」 竣工（8 号館）
2009 年（平成 21 年）4 月	専門学校麻生外語観光カレッジを麻生外語観光＆製菓専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校を麻生看護医療専門学校に改称 麻生工科デザイン専門学校を麻生建築＆デザイン専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校北九州校を専門学校麻生医療福祉＆観光カレッジに改称
2010 年（平成 22 年）3 月	麻生公務員専門学校福岡校 新校舎竣工（9 号館）
2012 年（平成 24 年）4 月	麻生リハビリテーション専門学校を専門学校麻生リハビリテーション大学校に改称 麻生看護医療福祉専門学校を専門学校麻生看護大学校に改称
2012 年（平成 24 年）9 月	麻生塾 北九州キャンパス西小倉校舎 竣工、麻生公務員専門学校北九州校 移転
2015 年（平成 27 年）3 月	福岡キャンパス 10 号館 竣工
2015 年（平成 27 年）4 月	株式会社麻生キャリアサポート 設立
2016 年（平成 28 年）9 月	福岡キャンパス 11 号館（旧博多織会館）取得
2017 年（平成 29 年）7 月	株式会社プロジェクトスタジオ Q 設立
2018 年（平成 30 年）4 月	ASO ポップカルチャー専門学校 開校
2019 年（平成 31 年）4 月	ASO 高等部 設立
2020 年（令和 2 年）4 月	専修学校麻生ビューティーカレッジを麻生美容専門学校に改称、福岡キャンパスに移転
2022 年（令和 4 年）3 月	麻生医療福祉＆観光カレッジ 閉校 福岡キャンパス 12 号館 取得
2023 年（令和 5 年）4 月	麻生外語観光＆製菓専門学校を麻生外語観光＆ブライダル専門学校に改称
2024 年（令和 6 年）4 月	麻生医療福祉専門学校福岡校を麻生医療福祉＆保育専門学校に改称

2. 設置する学校・学科（2024年5月1日 現在）

学校名(所在地)	学科名	備考
麻生情報ビジネス専門学校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-32)	情報工学科 高度 IT システム専攻 情報工学科 高度ネットワーク・セキュリティ専攻 情報工学科 AI&IoT 専攻 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻 情報システム専攻科 ネットワークエンジニア専攻 情報システム専攻科 AI エンジニア専攻 情報システム科 プログラミング専攻 情報システム科 ネットワーク専攻 情報システム科 AI プログラミング専攻 ビジネスエキスパート科 情報ビジネス科 経営ビジネス科 経理科 国際ビジネス科 国際 IT エンジニア科	留学生専用学科 留学生専用学科
麻生外語観光＆ブライダル専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-17) (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	エアライン科 ブライダル・ウェディング科 ホテル・リゾート科 グローバルコミュニケーション科 国際おもてなし科 日本語科(1 年課程) 日本語科(1.5 年課程) 日本語科(2 年課程)	留学生専用学科
麻生医療福祉＆保育専門学校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24) (福岡市博多区博多駅南 2-12-29)	医療秘書・事務科 診療情報管理士専攻科 診療情報管理士科 こども未来学科 こども保育科 社会福祉科 福祉心理学科 介護福祉科 国際介護福祉科 社会福祉士通信課程 精神保健福祉士通信課程	留学生専用学科
麻生建築＆デザイン専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-11-13) (福岡市博多区博多駅南 1-14-12)	建築工学科 建築士専攻科 建築学科 建築 C A D 科 インテリアデザイン科 建築学科<夜間> クリエイティブデザイン学科	
麻生公務員専門学校 福岡校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-14)	公務員専攻科 公務員総合科 公務員中上級専攻科 公務員中上級教養科	

ASO ポップカルチャー専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-14)	ゲーム専攻科 CG 専攻科 ゲーム学科 CG 学科 アニメ学科 マンガ学科 イラスト学科 コミックイラスト科 コミックイラスト研究科	
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区浅野 2-11-33)	システムエンジニア科 コンピュータシステム科 オフィスビジネス科 ゲームクリエイタ科 C Gデザイン科	
麻生公務員専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区室町 3-2-62)	公務員専攻科 公務員総合科	
麻生看護大学校 (飯塚市芳雄町 3-83)	看護科 看護科通信課程	
麻生リハビリテーション大学校 (福岡市博多区東比恵 3-2-1)	理学療法学科<昼間部> 理学療法学科<夜間部> 作業療法学科<昼間部> 作業療法学科<夜間部> 言語聴覚学科<昼間部> 言語聴覚学科<昼夜間部>	
麻生美容専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	美容科 美容科通信教育課程	
麻生工科自動車大学校 (福岡市博多区東比恵 2-8-28)	1 級自動車整備科 2 級自動車整備科 自動車工学・機械設計科 国際自動車整備科	留学生専用学科
ASO 高等部 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24)	情報システムコース ゲームクリエイターコース CG・イラストコース	



3. 学校別入学定員、学生数等の状況（2024年5月1日時点）

学 校 名	入学定員	収容定員	在学生数
麻生情報ビジネス専門学校	360	880	1,132
麻生外語観光&ブライダル専門学校	450	860	556
麻生医療福祉&保育専門学校 福岡校	260	570	369
麻生建築&デザイン専門学校	470	1,020	761
麻生公務員専門学校 福岡校	595	855	504
ASO ポップカルチャー専門学校	280	805	596
麻生美容専門学校	114	228	214
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校	160	380	367
麻生公務員専門学校 北九州校	220	300	191
専門学校麻生リハビリテーション大学校	260	800	530
専門学校麻生工科自動車大学校	220	590	325
専門学校麻生看護大学校	60	180	181

4. 組織図 (2024年4月1日時点)



5. 学校別教職員（2024年5月1日時点）

学 校 名	教員 (専任)	教員 (兼任)	職員 (専任)	職員 (兼任)
麻生情報ビジネス専門学校	46	30	43	0
麻生外語観光&ブライダル専門学校	29	74	4	40
麻生医療福祉&保育専門学校	26	99	1	
麻生建築&デザイン専門学校	28	58	3	
麻生公務員専門学校 福岡校	26	11	3	
ASO ポップカルチャー専門学校	27	33	2	
麻生美容専門学校	14	44	1	
麻生情報ビジネス専門学校北九州校	14	17	8	0
麻生公務員専門学校 北九州校	9	5	5	0
専門学校麻生リハビリテーション大学校	38	87	8	0
専門学校麻生工科自動車大学校	20	17	5	0
専門学校麻生看護大学校	12	98	15	0

Ⅱ．事業の概要

2024年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりである。

1．重点施策の推進

法人及び設置学校の安定した経営基盤確立のため、下記事業活動における各施策の推進に努めた。重点施策の主な実績は以下の通りである。

(1) 学生募集活動の強化

① 募集活動

(ア) オープンキャンパスへの動員

2024年度は、高等学校への営業活動、高校生と直接接するガイダンス活動に注力した。結果的に高校生(全学年)のオープンキャンパス動員は直近の5年間で最多となった。特に2年生については過去最多の実績となり、2025年度募集に繋がる布石を打つことができた。

高校生の進路活動の早期化に伴い、従来よりも早い高校1、2年生の時期に接触し、その後、長期のフォロー活動によって希望者を繋ぎ留めていくことが重要となってきた。次年度以降、LINEをはじめとしたSNSを活用しながら、継続的な募集活動へと転換していくことで入学者の確保を実現していく。

(イ) 麻生専門学校グループの認知獲得、拡大

募集活動基盤となる九州各県において、麻生専門学校グループの更なる認知獲得・拡大を図るため、TGCへの協賛をはじめとする各種イベントの実施、テレビCMやWebでの広告出稿を行った。また、これらの取り組みについては積極的にプレスリリースを配信した。

(ウ) 学生への付加価値創出

麻生専門学校グループだから受けることができる教育＝麻生専門学校グループでしか受けられない教育、付加価値創出を目的とし、行政や企業など広く社会に対する営業活動を行った。特に、2024年度は、九州各県行政とUIJターン就職支援に関する協定を締結した。今後、協定締結を契機とした企業とのリレーションを強化し、引き続き付加価値創出に取り組む。

② 入学状況

18歳人口は前年からやや増加した年度であったが、毎年、過去最高を更新する大学進学率、人手不足に起因する売り手市場での高卒就職者数増加等の影響を受け、前年よりも入学者数が減少する結果となった。特に、市場やトレンドの変化により大きな影響を受けた医療分野、競争苛烈なポップカルチャー分野、美容分野、また、北九州エリアで当初計画より大きく減少する結果となった。

(2) 就職・キャリア形成支援

学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観醸成及び職業に関する知識・技能を修得して主体的に進路を選択できる能力を育成し、

社会で活躍し続ける自立した人材を輩出することを目的としている。

① 就職支援策の実施

学生の就職活動支援においては、ファーストキャリアを重要視し、就職部門と教務部門にて業界企業と連携し、学生及び保護者のニーズを踏まえた上で進路支援を行っている。依然、早期化が進む就職環境において、今の就職環境に合わせた就職支援施策を企画・実施している。具体的には各分野での「就職・進路ガイダンス」、「個別面接対策指導」、「学内合同企業説明会」等を実施し、学生のより効果的・効率的な就職活動をバックアップしている。

② 求人プラットフォーム「Career Map(キャリアマップ)」の活用促進

学生のタイムリーな求人票の検索・閲覧や求職者情報入力による求職票の代替、求人データの入力、管理のシステム化により、学生のキャリア選択の幅の拡大のみならず、担当者の業務効率とエネルギーシフトが図られており、就職活動およびサポートのDX化に寄与している。

③ UI ターン就職や企業奨学金など価値ある情報の収集及び学内発信

九州各県における企業の人材獲得に関する課題解決に貢献すべく、UI ターン就職や企業奨学金など有益な情報について学内配信の仕組みを構築した。学校別に各県出身者リストを作成し、合同説明会などのイベント告知チラシを該当学生に直接配布するほか、就職年次の全学生へのメール配信、学生ポータルサイト内の就職ページへの情報掲載、クラス内でのチラシ掲示、就職部会における教務への情報共有など、複数の手段による情報伝達を行った。

④ ASO 卒業生キャリア支援「CONNECT (コネクト)」の運営

卒業生の再就職支援や仕事の悩み相談や不安解消など、専門のキャリアカウンセラーによる個別サポート体制を整えている。丁寧なカウンセリングを行ない、悩みの解決や自己分析、志望動機の深堀など、社会で活躍し続けるためのキャリア構築のサポートを行っている。

(3) 教育の質向上

① 教員の資質向上

(ア) 授業力向上

教員の資質向上に向けて、授業アンケートに加え、校長代行による各教員への授業評価およびフィードバックを実施し、授業改善を推進している。また、取り組み状況については、自己点検・評価後の審査を通じて確認を行い、職業教育マネジメントサイクルの活性化を図っている。

(イ) 新任教員研修

新任教員(1・2年目)を対象に学生対応力、クラス運営力向上をはじめ、AI活用、リスクマネジメント等の研修を計画・実施している。特に1年目の教員に対しては、チューターによるサポートに加え、年間を通してのOff-JT研修を受講することで、個々人の課題を確認し改善につなげる取り組みを行っている。

(ウ) 学内研修

本校教員に授業力・指導力向上を目的とした講座を開講し、受講を促して

いる。学生面談や教員間コミュニケーションに必要となるコーチングやアサーティブに加え、特に近年、指導力の課題となっている、多様化する学生や対応困難な学生への対応力強化のため、Z世代の理解を促す研修や、合理的配慮や LGBT に関する研修を開講し、指導力向上につなげている。

② 教育の質の向上

企業、社会に貢献するべく、各校にて質の高い授業を展開し、優秀な人材を送り出す教育活動を続けている。カリキュラムの編成にあたっては、関係者からのニーズや意見を踏まえるようにしている。

③ 主体的学びの促進

麻生専門学校グループ独自の LMS (learning management system／学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステム) を用いた新しい授業スタイルの構築、および国家試験対策プロダクトの開発を進め、学生の主体的学びの促進に取り組んでいる。

④ 授業改善

(ア) 学レポの導入

学レポ (LMS を利用した授業後のアンケート) を導入し、分かった点や分からなかった点、授業のおすすめ度を把握して授業改善に役立てている。

(イ) 授業アンケート

半期毎に学生に対して教員の授業内容に関するアンケートを実施した。また、当該アンケート結果を元に、管理職が授業見学を実施し、その結果を教員にフィードバックすることで、今後の授業運営改善や必要な能力開発を実施している。

(4) グローバル化の推進

円安や物価高騰等の影響もあり、留学希望者は少ない傾向ではあるが、長期留学1名、短期留学3名、また麻生塾が費用を支援する麻生塾海外留学奨学制度では5名の学生が海外留学を果たした。また、全グループ校の学生が参加できる無料英語講座等を実施した。

① 麻生塾海外留学奨学制度

在校生の英語に対する興味喚起と異文化理解促進を目的に、麻生塾海外留学奨学生制度を2015年より開始した。例年フィリピン・セブ島での2週間の語学研修を実施していたが、2022年度から派遣国を増やし、カナダ・オーストラリア1週間またはフィリピン・セブ島2週間のどちらかを選択できるようにした。2024年度は、5名のうち2名をカナダに、2名をオーストラリアに、1名をフィリピンに派遣した。帰国後には「成果報告会」を実施し、在校生や教職員へ自身の成長について発表を行った。

② 外国人留学生の受け入れ

麻生専門学校グループでは、引き続き多様な国と地域 (アメリカ、中国、フランス、ベトナム、スリランカ、韓国、タイ、インドなど計26カ国・地域) からの外国人留学生を受け入れており、2024年10月時点における在籍留学生数は648名となった。これは前年の523名から大幅な増加であり、コロナ禍後の入国制限緩

和と日本語学校卒業生数の回復が要因とされる。

受け入れ体制としては、外国人スタッフを7名に増員し、日本語・専門教育の学習支援だけでなく、生活全般の相談対応や就職活動支援も充実させている。

日本語科においては、麻生専門学校グループへの進学を目指す留学生の割合が引き続き高く、2024年度には専門課程への進学率が69.2%と、前年(41.7%)を大きく上回っており、日本語教育と進学支援体制の強化が進学率上昇の要因と考えられる。

また、専門課程には引き続き留学生向けの特化学科を設置しており、2024年度の入学者数は189名と、2023年度(122名)を大きく上回る結果となった。これは福岡都市圏における日本語学校卒業生数の急増と麻生専門学校グループへの信頼度向上によるものと分析される。

今後も、麻生専門学校グループは多文化共生の理念のもと、学習環境と生活支援体制のさらなる充実を図り、世界中の留学生にとって魅力ある教育機関となるよう努めていく所存である。

③ 海外留学(長期/短期)の強化

麻生塾では「グローバル社会に対応できる人材育成」に向け、全在校生を対象に海外留学プログラムを提供している。プログラムは夏季・春季の長期休みを利用して参加する短期留学と、1年間休学して参加する長期留学を実施している。

留学に際しては、留学カウンセリング、留学説明会・報告会などの支援に加え、留学先でのリスク回避を目的とした出発前危機管理セミナー、英語学習や異文化理解に関する研修等、学生のみならず保護者の方々にも安心して留学に参加してもらうための支援を行っている。海外への送り出し先としては8カ国、18教育機関となっている。

また、カリキュラムに海外研修が組み込まれている学校においては、フィリピン、ニュージーランド、韓国での研修を実施している。

④ インドネシア BINUS 大学 3,4年次生のインターンシップ受け入れ

将来的な麻生及び麻生グループでの高度外国人材採用を視野に、2020年より毎年約1年間、BINUS大学の3,4年次生3~4名を麻生塾にて対面インターンシップ生として受け入れており、2024年度も4名を受け入れた。日本語の語学研修を行いつつ、各人のBINUS大学での専攻分野に対応する部署で業務を経験した。尚、このインターンシップはBINUS大学の単位として認められている。インターンシップ生の日本での就業体験はもとより、麻生専門学校グループのグローバル対応能力向上に向けての取り組みの1つとなっている。例えば、麻生専門学校グループの学生へ無料の英語講座を実施するなど、グローバル推進に貢献している。なお、2024年度のインターン生4名の内、2名がインターン終了後に日本国内企業の内定を獲得している。

⑤ 教職員におけるグローバル感覚醸成

教職員におけるグローバル感覚の醸成を目的に、教職員自身がグローバルな視点を養えるよう取り組みを実施している。2024年度は、グループ会社の社員を交えたBINUS大学からのインターンシップ生との国際交流イベントを4件実施するなど、教職員が気軽に英語を使用し、外国の文化・価値観に触れられる機会を提供

した。従来からある教職員向け無料英語講座の受講斡旋も例年どおり行い、2024年度は過去7年間で最多の67名の教職員が講座を受講した。

2. 学校運営

(1) 運営組織

組織体制としては12校の専門学校に加え、各校の運営をサポートする本部機能を有している。

① 本部機能

法人本部・教育本部・GC推進本部・経営企画本部という4本部体制により、各学校とスピードを持った連携を図ることを目指した。また、機能別に役割を分けることにより、各部門の役割と部門の目指すべき方向性を明確にした。

② 各学校

学校運営全般業務

(2) 社会的責務への対応

いわゆる「大学全入時代」を迎え、また高卒採用の増加により、これまで以上に専門学校としての存在意義が問われることとなる。これは学校法人麻生塾としても全く同様である。

また、学生のバックグラウンド・ステータスの多様化に伴い、学校の種類に応じた教育のあり方が見直されている状況にある。

麻生塾では、このような社会的環境を直視し、改めて社会に貢献できる人材を送り出すべく、専門学校としてのあるべき教育を実現するための体制の再構築を行った。

① 社会の要請に応え得るガバナンス改革

改正私立学校法の施行（2025年4月1日）に向けて、麻生塾では寄附行為の改定作業を進めた。改正法の趣旨である幅広い関係者の意見の反映、逸脱した業務執行の防止の観点より、新たな寄附行為においては、理事、監事、及び評議員の資格、選任及び解任の手続等の整理を行った。

この寄附行為の改定は、麻生塾としてのガバナンス改革の柱をなすものであり、今後ますます社会の信頼を得て、その要請に応えることができる体制づくりに資するものである。

② 継続的取り組み

(ア)学習管理システム（LMS）の導入に伴い発生が予測される問題、特に著作権関連事項（複製・公衆送信の限界に関する理解の持ち方）、また、生成AIへの向き合い方について、法的な観点からのアプローチを行う。前者については、各校・各部門における現状を踏まえたヒアリング、さらに、ルール化を行う。後者については、2024年度に策定したガイドライン案をブラッシュアップし、正式な規程制定に結び付けたいと考えている。

(イ)2023年に改組した「リスクマネジメント委員会」を引き続き稼働させる。具体的には、委員会の基本方針を「リスクマネジメント委員会事務局」にて検討・決定し、「リスクマネジメント委員会全体会」にて、事例の共有、またそれを踏まえた啓蒙・啓発、研修を行う。特に、学生向けの啓蒙啓発

のために法令の説明、教職員向けのコンプライアンス教育の観点から規程に関する研修を行っていく。

③ 2024 年度の取り組み

(ア) 学生が充実かつ安心した学校生活を送ることができるよう、各種規程の策定を進めた。具体的には、「学生ポータルサイト」要件定義書作成、食物アレルギー対応規程、駐輪場管理規程、直営寮の寮則などである。

また、学生生活をおくるにあたって注意すべき事項をまとめた学生啓発用資料も作成した。これらの規程・資料は学校としての安定した対応に繋がったと考えている。

(イ) 授業等の教育活動を担う教員、また、これを支える事務職員が、心置きなく業務に専念できるよう、「緊急時対応マニュアル」(火災・地震への対応)の策定、「ハラスメント防止規程」の改定を行った。その運用のあり方が安定・定着することによって、更なる効果が期待できる。

(ウ) コンプライアンス遵守の観点より、各種契約書作成におけるチェック観点・作成方法等をマニュアル化した。今後、契約締結の適正化に繋がることが期待できる。

3. 教育活動

(1) 学科の新設、廃止

① 麻生医療福祉&保育専門学校

校名を麻生医療福祉専門学校福岡校から麻生医療福祉&保育専門学校へと変更した。

② 専門学校麻生工科自動車大学校

スケールメリットを活かした習熟度別のクラス運営を実施するため、麻生外語観光&ブライダル専門学校の日本語科と統合することとし、日本語科を廃止した。

(2) キャリア教育 (GCB 教育)

① GCB 教育の概要

麻生専門学校グループの教育理念に沿った人材育成の一貫として位置付けられている独自のキャリア教育プログラムである。実社会にて、専門スキルを十分に発揮するため必要とされる社会人スキルと、その土台となる人間力の向上を目的とし、3段階の教育内容にて構成されている。

教育目標は、麻生グループ 116 社 (2024 年 4 月 1 日現在) が掲げる人材「グローバルシティズン」(定義: 世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に貢献する人)を育成像とし、GCB I・II プログラムについては全学生が履修する。

(ア) GCB I

社会で生き抜く基盤を「感謝する心」として据え、自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築するコミュニケーションなどを中心に「社会人基礎力」の理解と向上について学ぶ

(イ) GCBⅡ

強い信念と共に公・社会を視野に入れ、具体的な行動目標(言語化・数値化)をもって努力を継続することで実現する「志」について考える

(ウ) GCBⅢ (選抜方式)

グローバル社会における活躍人材や多様性を生かしたリーダーシップ、また組織力を高めるフォロワーシップなどを学内外の講師陣より学ぶ

② 教育改善

本校独自のキャリア教育プログラムとして 2010 年の導入以来、GCBⅠ・Ⅱにおいては、「人間力＝マナー(協調性)・人間性(感謝心)」を軸とし、社会人基礎力の強化を図る内容を付加することで、プログラムのブラッシュアップを行ってきた。知識習得型の科目でないことから、学生の行動変容を促す担当教員の指導力に開きが生じてしまう点が課題であったが、2023 年度に標準プログラム対応のオンデマンドコンテンツ(GCBⅠ・Ⅱ)を完成させ、授業力の標準化を図ることができた。さらに学習効果を高めるため、AI を活用した授業方法の開発に努めた。GCBⅢは、履修を希望する学生を対象として正規出校日外に開講されるプログラムであり、福岡キャンパスにて実施しているが、時代のニーズに沿ったプログラムを抜本的に改訂する準備期間を要したため未開講となった。

(3) 研究関連活動

文部科学省および厚生労働省の委託事業参加状況は下記のとおりである。

- ① Society5.0 [創造社会] における情報分野の DX 人材養成プログラム開発プロジェクト
- ② 生成 AI の実務応用を軸とする次世代型 IT 人材を育成する教育モデルの開発事業
- ③ 先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業
- ④ 地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業
- ⑤ 自動車業界における“業務に直結する”基礎知識・先端技術の習得プログラム開発
- ⑥ 自動車整備分野の外国人留学生(受入れ/在学/就職/定着)のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業 等

4. 学生支援

(1) フレックスクラス・学生相談室

フレックスクラスは、学生の多様化にともない、諸々の課題を抱え、通常クラスでの修学が困難な学生を対象に「学びの第二環境」という位置づけにて、福岡キャンパス内に 2022 年度より設置された。オンライン授業等を活用しながら単位履修に努め、同時に社会性の育成、意識向上に向けての指導を行うことにより、卒業や通常クラスへの復帰を目指している。2024 年度は 49 名の学生が利用し、卒業および本クラスへの復帰率は 72%だった。

また、安心して学生生活を送ることができるよう、学生相談室を設置し、精神面での課題を抱える学生には臨床心理士が継続的な支援を行いながら、必要に応じて医療機

関へ繋ぐことや、日常における修学や就職活動などの不安、悩みを持つ学生たちには、担当職員によるサポートを推進している。

運営にあたっては、守秘義務を順守するとともに、個人情報保護管理規程に則って相談内容を適切に管理している。

① 実施内容

(ア) 臨床心理士によるカウンセリング

(イ) 担当者によるインテーク面談

(2) 学びラボ

基礎学力面でのサポートを実施するために「学びラボ」を設置し、学生の基礎学力習熟度に応じて個別授業・集合型授業を実施し、学修意欲の維持向上に努めている。

① 実施内容

(ア) 開講期間：7月～2月（全25回）

(イ) 科目：国語・数学基礎

(3) 学修支援のための奨学金制度

将来有望な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、多様な能力を評価する奨学生制度を実施している。

① 特待生制度-特待A（学力特待生制度）

② 特待生制度-特待B（総合力特待生制度）

③ 特待生制度-特待C（資格等特待生制度）

④ 再進学支援金

⑤ 自然災害発生に伴う支援制度

⑥ 寮奨学制度

⑦ 麻生塾海外留学奨学制度

5. 社会貢献・地域貢献

(1) 活動状況

① 次世代リーダー養成塾への担任派遣

日本の次世代リーダー養成塾とは、経済界や地方自治体を中心となり、全国の志の高い高校生を対象に日本以外にも世界を舞台に挑戦する人材の育成を目指したサマースクールである。次世代リーダー塾では、従来の学校教育では実現できない、日本や世界を代表する様々な分野で活躍する一流の講師を招き、学問の楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを教える。

クラス担任は企業の中堅社員が務めており、麻生専門学校グループからは毎年講師を派遣するなどして活動を支援している。

② ボランティア活動

(ア) 地域ボランティア活動

国家・地域社会に貢献する観点から、学生の人間的成長を促すため、学生の社会貢献・地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。

活動内容： ・中州環境浄化パレード
・博多どんたく港まつり

- ・放課後児童クラブ
- ・福岡マラソン 等

(イ) 子ども食堂

地域の小学校、公民館と連携し学生が企画・計画・運営を行うこども食堂を学内で月1回のペースで実施している。食事の提供や、こども達の宿題などを支援する活動や健康増進のためのレクリエーションなども実施している。

内容：地域の子どもたちに食事の提供 / 学習支援 / レクリエーション

連携団体等：小学校、公民館、社会福祉協議会、一般企業、NPO（特定非営利活動法人フードバンク福岡）

6. 働きがい創生

(1) 多様な働き方への対応

1 人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事の責任を果たすとともに、家庭や地域生活において、多様な生き方を選択・実現できる様、下記の取り組みをおこなっている。

- ① 適切な労働時間の管理や年次有給休暇取得の定着（法定年休5日含む）
- ② ライフステージに応じた働き方に対する情報発信（時短勤務、育児休業・休暇、子の看護休暇、介護休業・休暇、時差出勤など各種制度）
- ③ 女性の育児休業取得率は100%を達成。男性の育児休業取得実績1件。
- ④ 時間単位年次有給休暇制度の定着。
- ⑤ ノー残業デーの定着（月に1回以上）
- ⑥ キャリアプランやライフステージに合わせた働き方を実現するための幅広い雇用形態の整備と定着。
- ⑦ 年間休日数120日へ変更

以 上